

# 神経筋疾患の児童生徒の主体的な取組

## ～e スポーツの実践を通して～

北海道八雲養護学校 教諭 小野寺 織 絵

### I 研究テーマの設定理由

本校の児童生徒は、病気が進行し筋力が低下してから転校もしくは高等部に入学者が多いこともあり、病気の進行に伴って運動機能が低下することによる経験不足や、喪失感を感じる児童生徒が多い。

このようなことから、これまでもスティックスポーツやハロウィック水泳法などの神経筋疾患や重度重複障がい児童生徒一人一人が主体的に学習に参加し、自己肯定感を高めることができるよう指導内容や教材の工夫を図り、保健体育科の授業を実施してきた。

その学習内容の一つの手立てとして、昨年度から取り組み始めているのが、eスポーツである。昨年度、公益財団法人北海道サッカー協会、株式会社コナミデジタルエンタテインメント事業推進本部 esportsメディア推進室、北海道新聞社の御協力により、サッカーソフト「ウイニングイレブン」によるeスポーツを実施した。

実施に当たっては、年間指導計画を変更し、体育科の授業において本校独自の車いすサッカーを実施し、車いすサッカーと比較することで、基本的なサッカーのルールを理解することから始め、冬季休業中の登校学習日に実施した。

今後、スポーツとしてより発展し、様々な人との交流や障がいのある人たちのスポーツへの参加の可能性を拡大するものと注目されたりしているeスポーツを教育課程の中にどのように組み込んでいき、児童生徒の様々なスポーツへの参加の可能性の拡大、余暇活動の充実につなげることを目的に本研究に取り組むこととした。



### II 本校の概要

本校は、国立病院機構八雲病院に併設された、神経筋疾患や重度心身障がいの児童生徒を対象

とした小学部から高等部までの病弱特別支援学校である。昭和32年に八雲小・中学校「ひまわり学院」として発足し、平成29年度に、創立60周年を迎えた歴史のある学校であるが、令和2年8月に併設する八雲病院の札幌市への機能移転に伴い、本校も、札幌市へと機能移転することとなっている。令和元年10月現在の在籍者数は、小学部1名、中学部5名、高等部8名 計14名、そのうち10名が筋ジストロフィーなどの神経筋疾患の児童生徒である。

また、本校は、児童生徒の障がいの程度や実態に応じて3つの類型を設定し、教育課程を定め学習を進めている。

普通学級	重複障がい学級	
A類型	B類型	C類型
普通学校に「準ずる」教育	知的障がい特別支援学校代替	「自立活動」中心

### III 研究の内容と活動の実際

#### 1 学級におけるeスポーツの取組（自立活動）

##### ア 対象

八雲養護学校中学部B類型 2名

##### イ 実施期間

令和元年9月～10月 10時間

題材名	時数
オリエンテーション	1
eスポーツについて調べ学習	5
先輩にインタビューをしよう	1
インタビューのまとめをしよう	1
発表の練習をしよう、体験してみよう	1
参観日で発表しよう、対戦してみよう	1

##### ウ 内容

#### ① 調べ学習の取組

eスポーツとは何か、どのような競技があるのか、どのような大会があるのかなど、生徒が

それぞれ調べ学習を実施し、レポートでまとめることにより、eスポーツに対する興味・関心の幅を広げ、将来に向けて余暇活動の充実を図る。



【調べ学習の様子】

## ② インタビュー活動

併設する八雲病院でeスポーツの活動している先輩から実際にどのようなことをしているのか、どのような工夫をしているのかなどをインタビューしてまとめる。



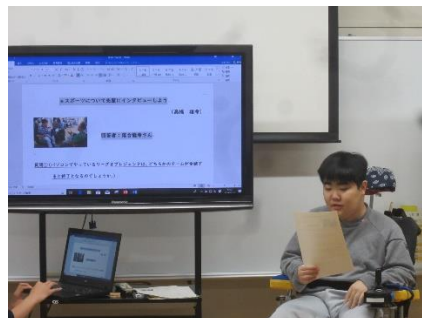
【インタビューの様子】

## エ 指導の実際

調べ学習や実際に活動している先輩にインタビューを行うにあたり、eスポーツが様々な形で注目され、誰でも身近に行うことができることを生徒自身が感じることができ、「自分もやってみたい。」という感想を話していた。また、自分が行っている「ゲーム」が「eスポーツ」となり、様々な人と対戦できることを知り、eスポーツに対する考え方の広がりをもつことができた。

また、授業参観日に調べた内容を保護者に発表したり、保護者と一緒に対戦ゲームを行う学

習を取り入れたことで、コントローラーの使用方法を保護者に教えたり、ルールが分からない保護者にゲームの戦術を教えるなど、eスポーツを通して共同する楽しさを知り、「eスポーツの魅力」を体感したり伝えたりすることができた。



【発表の様子】



【対戦の様子】

## 2 遠隔交流学习におけるeスポーツの取組

(総合的な学習の時間)

### ア 対象

八雲養護学校中学部A類型 1名

B類型 2名

### イ 実施時期

令和元年 12月中を予定

### ウ 内容

令和2年度8月に札幌市に移転することが決まっており、同じ建物の中に本校と札幌市立山の手養護学校が入ることが決まっている。そのため、互いの学校や友達の良さを知り、コミュ

ニケーションの拡大を図るために、両校の中学部同士の交流を遠隔システムを通してこれまでも行ってきた。

今年度は、eスポーツを通して交流を行うことは決定しているが、ネットワーク環境が十分に整っていないため、まだ実施に至っていない。ネットワークの検証や両校の日程が整い次第実施する予定である。

童生徒が主体的に活動し、自己肯定感を高める取組を考案・発信し、北海道の病弱教育の充実を図っていきたい。

### 3 保健体育におけるeスポーツの取組 (保健体育)

#### ア 対象

- (ア) 八雲養護学校小学部児童B類型 1名
- (イ) 八雲養護学校中学部生徒A類型 1名  
B類型 2名
- (ウ) 八雲養護学校高等部生徒A類型 3名  
B類型 2名

#### イ 実施期間

令和元年 11月28日～12月18日 8時間

題材名	時数
オリエンテーション プロの選手の映像を見よう	1
サッカーとフットサルの違いやルールを知ろう	1
eスポーツとスティックでやってみよう(試合)	4
エスポラーダ北海道 小野寺隆彦GM来校	2

#### ウ 内容

昨年度行った本校独自の車いすサッカーを実施し、サッカーと車いすサッカーのルールの違いの説明をeスポーツを通して行った。12月18日にエスポラーダ北海道の小野寺GMをお招きして、プロ選手の技や戦術を実際に見たり聞いたりすることで、eスポーツにおける、戦術に取り入れながら、プレーを試みる予定である。

## IV 終わりに

小野寺眞悟財団の御支援により、eスポーツの取組みを行うことができています。10月現在の中間報告では、未実施の研究があったため、3月の発表時にまとめられるよう研究を進めていく。

今後も、財団の御支援のもと、全道唯一の道立病弱特別支援学校として、eスポーツの取組など児